

令和6年度第1回 那珂市自転車活用推進協議会 会議録

1 日時 令和7年2月18日(火)午後2時～午後4時

2 場所 那珂市役所4階庁議室

3 出席者

(1)委員

①直接参加

平田 輝満 委員(茨城大学大学院 理工学研究科 都市システム工学領域 教授)

東ヶ崎 利信 委員(いばらきサイクリング協会 理事)

原口 一英 委員(那珂市商工会青年部長)

堀田 俊和 委員(住民代表(市内在住サイクリスト))

國井 元耶 委員(木内酒造株式会社)

瀬谷 尚男 委員(茨城県県民生活環境部 スポーツ推進課長)

(代理出席:赤穂 智也(茨城県県民生活環境部 スポーツ推進課 課長補佐))

米川 博之 委員(茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室長)

(代理出席:小島 謙一(茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室 技佐))

一澤 孝夫 委員(茨城県常陸大宮土木事務所 道路管理課長)

(代理出席:引田 智之(茨城県常陸大宮土木事務所 道路管理課 係長))

菊池 直紀 委員(茨城県那珂警察署交通課長)

②WEB参加

絹代 委員(サイクルライフナビゲーター)

(2)幹事

企画部長 渡邊 莊一

市民生活部長 平野 敦史

保健福祉部長 生田目 奈若子

建設部長 高塚 佳一

(3)事務局

政策企画課:課長 金田 尚樹、課長補佐(総括) 宇佐美 智也、

課長補佐(政策企画グループ長) 郡司 智弘、主幹 井上 圭

(4)その他

那珂市長 先崎 光

※途中、公務のため退席

4 欠席者

峯岸 行生 委員(グリーンサイクル・さいと 代表)

産業部長 加藤 裕一

教育部長 浅野 和好

5 会議内容

(1)開会

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

本日はお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今から、令和6年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を開会いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます。那珂市政策企画課政策企画グループの郡司と申しま

す。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の協議会への参加については、この会場にご出席いただいている皆様のほか、絹代 委員につきましては、オンラインでご参加いただいております。

また、瀬谷 委員並びに米川 委員、一澤 委員につきましては、本日所用によりご出席できないため、代理として、茨城県県民生活部スポーツ推進課 赤穂課長補佐、茨城県道路維持課道路保全強化推進室 小島技佐、茨城県常陸大宮土木事務所 引田係長にそれぞれご参加いただいております。よろしくお願いいたします。

なお、峯岸 委員につきましては、本日所用により欠席とのご連絡をいただいておりますので、併せてお知らせいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず始めに、先崎市長よりごあいさつを申し上げます。

(2)挨拶

○先崎市長

皆さん、こんにちは。那珂市長の先崎光でございます。

委員の皆様におかれましては、年度末のお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では、令和2年9月に策定しました、「那珂市自転車活用推進計画」に基づき、基本理念である「市民が自転車をたのしみ、サイクリストを迎える“ハートのまち”」の実現に向け、自転車にやさしい空間づくりや、交通安全意識の向上に向けた情報発信、そして、自転車を軸とした地域の活性化に取り組んでいるところです。今年度は、LuckyFM 茨城放送さまと共催した「いばチャリ in 那珂」や例年開催しているハーフセンチュリーいばらきサイクリング大会を通じて、市内外から多くのサイクリストにご参加いただき、サイクリングを通して本市の魅力を発信してまいりました。

さらに、期間型イベントとして、サイクルトレイン走行エリアの各自治体と連携し、水郡線90周年を記念した「サイクルロゲイニング in 奥久慈」や昨年度から実施しているJR水戸支社さまと連携したデジタルスタンプラリー「駅からサイクリング」を開催しました。

このような取り組みをとおして、交流人口を増加させ、地域活性化につなげるとともに、自転車で事故に遭わないように交通安全への意識を高めながら自転車の利活用を推進していきたいと考えております。その他、自転車を快適に利用できる環境づくりの一環として、矢羽根の設置やサイクルサポートステーションの整備についても、引き続き推進してまいります。

本日は、事務局より本年度の施策の実施状況について報告をさせていただきます。委員の皆様におかれましては、専門的な立場から忌たんのないご意見をいただき、自転車の利用の促進につなげていきたいと考えております。

なお、公務のため途中で中座させていただきますが、皆様よろしくお願いいたします。

(3)委員紹介

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

先崎市長、ありがとうございました。続きまして、「次第の3 委員紹介」でございます。今年度人事異動により変更となった委員の方もいらっしゃいますので、改めて委員の方々のご紹介をさせていただきますと存じます。大変恐縮ではございますが、お手元の委員名簿の順で、自己紹介の形でお願いしたいと存じます。

<委員自己紹介>

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

皆様、ありがとうございました。

続きまして、当協議会の「幹事」及び「事務局職員」の紹介をさせていただきます。

<幹事、事務局自己紹介>

(4)会長及び副会長の選任

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

続きまして、「次第4 会長及び副会長の選任」でございますが、那珂市自転車活用推進協議会設置要綱第4条第2項の規定により、会長は市長が委嘱することになっております。先崎市長からご指名よろしく申し上げます。

○先崎市長

会長は、茨城大学大学院教授の平田委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

先崎市長ありがとうございます。次に副会長につきましては、同じく協議会設置要綱第4条第2項の規定により、会長が副会長を指名することとなっておりますので、平田会長よりご指名をお願いいたします。

○平田会長

副会長は、いばらきサイクリング協会理事の東ヶ崎委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

平田会長ありがとうございます。なお、先崎市長におかれましては、公務がありますのでこちらで中座になります。

○先崎市長

皆様、協議のほどよろしくお願ひいたします。

(5)協議事項

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

では、「次第の5 協議事項」に入ります。この後の議事進行につきましては、協議会設置要項第5条第1項の規定によりまして、会長が会議の議長となりますので、平田会長に議事進行をお願いいたします。

○平田会長

承知しました。改めまして茨城大学の平田です。今回も会長ということで、議事進行を務めさせていただきます。那珂市の自転車行政は、他の自治体と比べて先進的な部分もあり、非常に楽しい協議会の一つでもあります。那珂市自転車活用推進計画の策定から5年目となりますので、これまで5年間のレビューも含めて、今後5年間をどう活かしていくかという視点を持って協議に臨めればと思います。また、各委員におかれましては専門的な知見や地元ならではのご意見などの忌たんのないご意見をよろしくお願ひいたします。

それでは、「次第の5 協議事項」に入ってまいります。協議事項の「施策の実績報告及び今後の取組について」事務局より説明をお願いします。

○事務局より資料説明

・施策の実績報告及び今後の取組について【資料1】【資料2】【参考資料】

<協議>

○平田会長

ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの説明を踏まえ、ご意見等がございましたら、ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。市職員の方も、コメントがあればよろしくお願ひいたします。皮切りにウェブ出席の絹代 委員から先に一言いただけるでしょうか。

○絹代委員

内容が盛りだくさんで、那珂市さんはやる気があって他の土地がしり込みするようなことも積極的に取り組まれています。本当にありがとうございます。いくつか気になったことがあります、まず事故についてです。自転車関連交通事故について、ここまで詳細なデータを出してくれる自治体は珍しく非常に参考になります、歩道上の単路部での事故が多いと思われます。こちらは、歩道上を走行しているなか建物から出てきた自動車などと接触したという事故でしょうか。

また、車道順走の場合で、交差点の場合は右左折の巻き込みで起こった事故と推測されますが、単路部でもあるので、自転車でいくら気を付けていても防ぎようがない事故で、自動車の運転者に対して意識を高めてもらわないと改善できないと思いました。そのあたりを詳しくお教えいただけませんか。

○平田会長

参考資料についてですね。

○絹代委員

そうですね。詳細な情報を頂いていて、現状を紐解くのに非常に素晴らしい情報だなと思っています。おそらく、自転車関連の交通事故が年間12件発生していますが、利用率も上がっている程度仕方ない部分もあるかと思いますが、ドライバーの方々にかしてもらわないと解決できないような種類の事故であれば、対策も変わってくるなと思いますので。

○平田会長

事務局か那珂警察署かどうでしょうか。補足をいただければ、歩道単路部ということで、脇道から出てきた車と接触しているイメージを持ちました。統計上そういったものが入りますでしょうか。菊池 委員、何か分かればお願いします。

○菊池委員

資料にある事故までは詳細に把握してなく、今の段階で言えませんが、ここ1、2か月、資料以外の事故をご紹介させていただければと思います。自転車で自宅から出た際に起こってしまった事故や中学生が細い道に自宅から出ようとして、自動車と事故を起こしてしまったケースがありました。こちらはヘルメットをかぶっていませんでした。ヘルメットを着用していれば、防げた事故ではあったのではないかと考える事案でもありますので、自転車を乗られる方の安全確認意識が足りなかったのかなと思うところもあります。

また、国道118号で、自転車で車道を走行されている方が、いわゆる幅寄せではないのですが、大型バスがほとんど接触するくらいに接近してきて、自転車の横を通り過ぎて、事故には繋がらなかったが非常に危険であり警察としても対応したこともありました。那珂市としても、1.5mの思いやり運転の啓発をしていますが、そういった公共機関のドライバーが、会社としても1.5mは空けると指導しているようですが、実際はほとんど30cmくらいしか空けずに自転車の横を通過している実態もありますので、自動車ドライバーの安全意識の改善も急を要するかと思います。それぞれ安全意識が高ければ事故は防げた、大きな事故には繋がらないというのが一つあるかと思います。数値的なお答えをすることは難しいところですが、以上となります。

○平田会長

ありがとうございます。

○絹代委員

ありがとうございます。自転車に乗る方、自動車に乗る方それぞれが交通安全意識を高めないといいませんが、資料にもどうやって交通安全に取り組んでいるかあったかと思いますが、交通安全について資料にありますように交通安全教室や思いやり運転の啓発など取り組まれていることは分かりましたが、たとえば「安全に自転車に乗ろう」などポスターなどで啓発はされていないのでしょうか。

また、自転車教室となると年に1回程度しか実施されませんので、なかなか定着していくことが難しいと思います。また、自動車免許を返納された方々が、例えば三輪車的な自転車に乗り換えていくなど、

シニアの方々が自転車に乗り換えていくという動きが、今後全国各地で進んでいくと思います。さらにシニアの方々の自転車事故が圧倒的に多い中、自転車ルールを繰り返し繰り返し伝える必要があると思います。

今現在、自転車教室と思いやり1.5m運動以外に取組はされていないのでしょうか。どんな形で交通安全に取り組まれているかお教えいただけませんか。

○平田会長

では、事務局からの補足をお願いします。

○事務局(井上主幹)

ご指摘いただいたとおり、資料9ページの取組みのみを行っている状況であります。

○絹代委員

それだけだとちょっと足りないのかなという印象です。なぜ右側通行が危険なのかなど、なぜこのようなことをしたら危険なのか視覚で分かる啓発も必要かと思えます。チラシだと捨てられてしまいますので、嫌でも目に付くようにポスターの掲示など、コストを掛けず工夫を凝らして安全意識を高める取組みを行っていく必要があると思います。

また、ヘルメットの購入補助は大変素晴らしい取組みだと思いますが、1個情報提供になります。海外の通販サイトではヘルメットという名の帽子が安価で入り込んでしまっています。おそらくですが、転倒時には頭部を守ってくれないのかなと思われ。プラスアルファでこういったヘルメットが安全か併せて周知していただければと思います。

さらに、もう1点ご提案になりますが、通学路の安全点検とありましたが、ヒヤリ・ハットした場所や安全点検を行った箇所をその場にいる人で共有しても、年度が変わってしまえば忘れられてしまい、みんなで見ることができ共有できるような動きが少しずつ広まっていて、コストも特にかかりませんし、もし、そういった危険地域があるのであれば、市民全員がアクセスできるようにして共有しながら安全意識を高めるようなマップを作成してほしいと思います。次に語り継ぐ手間もかかりませんし、だれでもアクセスできるし、我々も手間もかかりませんしね。

○平田会長

絹代 委員ありがとうございます。最後のご提案は、大変素晴らしいと思えますし、市役所でも出来そうですし、市民参加型みたいで市民の方々の巻き込んで取り組めると思えます。簡易的なデジタルマップにこういった注意すべき情報などをGISに落とし込んで共有できるので簡単に出来そうな感じもします。市役所では、他の案件でこういった取り組みはされているのでしょうか。こういったお話に対してのコメントでも良いので、事務局いかがですか。

○事務局(井上主幹)

ご提案ありがとうございます。事務局としても、警察署からも自転車関連交通事故の情報提供もいただいておりますので、市民の方が見てすぐ分かるような、そういったことも含めてGISに落とし込んでデジタルマップの作成も検討が必要と感じました。

○平田会長

ありがとうございます。例えば、サイクルサポートステーションもサイクリングマップに掲載されていますが、更新しやすく共有しやすいデジタルマップに落とし込んでいくと良いかもしれませんね。サイクルサポートステーションの場所を確認しながら、ついでにここが危ないのかなど分かると尚更良いと思います。バラバラでやるのではなく、一つのプラットフォームでやっていくなんて面白そうですね。

絹代 委員ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。どこからでもよいですが、東ヶ崎 副会長、何かありますか。

○東ヶ崎副会長

はい、資料1の15ページにあります、デジタルスタンプラリーになりますが、完走者には特産品をプレ

ゼントとしたとありますが、何名の方が参加したのか、また、参加者の評価はどうだったのかお教えてください。

○事務局(井上主幹)

JR水戸支社が主催しているデジタルスタンプラリーは、2期に分けて開催したところですが、まず、4～7月開催分については、全体のツアー参加者数が50名で、スポット訪問人数が22名、特典獲得人数は10名となります。続いて、10～12月開催分については、全体のツアー参加者が29名で、スポット訪問人数が13名、特典獲得人数は9名になります。

なお、評価については、JR水戸支社からの情報提供は受けておりませんので、申し訳ございませんが把握できておりません。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

補足にはなりますが、近隣自治体のなかで特典を用意している自治体は那珂市と資料にあるサイクルロゲイニングを実施した埴町がございますが、参加者は比較的多いほうだとJR水戸支社から聞いております。JR水戸支社からもこういった取り組みをしたことで、ご紹介をさせていただいたところがございますが、毎年同じ取組ということで参加者は年々減少傾向にあります。

○平田会長

ありがとうございました。こちらはJR水戸支社の企画になるのですね。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

はい、茨城県のデスティネーションキャンペーンの一環で始まったものになります。那珂市でも期間型イベントが開催できないかと検討していた中で、こういったお話がちょうどございましたので開催したことになります。JRの各沿線の自治体に参加しているとお声掛けさせていただいて、那珂市にもあったので一緒にやっているという感じになります。

○平田会長

デスティネーションキャンペーンとありましたが、次年度以降JRは協力してくれますか。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

公共交通の利用促進と併せて引き続き開催すると伺っており、来年度の4～7月期についてもお声掛けいただいておりますので、那珂市でもエントリーさせていただいております。

○平田会長

那珂市のお店や観光スポットを知ってもらう機会でもありますし、また再訪してもらえるきっかけにもなるので、参加者が増えるといいですね。東ヶ崎 副会長がおっしゃったとおり、参加者の評価を踏まえて改善していくプロセスがあると良いと思います。

ありがとうございます。では、原口 委員、ご意見などいかがでしょうか。

○原口委員

自転車に乗っている人に対してですが、自転車がパンクなど故障した場合に、対応してくれる市のお店などそういう情報も入れても良いのかなと思います。そのあたりはいかがでしょう。

○事務局(井上主幹)

はい、そちらにつきましてはサイクルサポートステーションが市内各地にございまして、そちらにパンクなど故障された方に貸し出せる工具を置いております。また、サイクリングマップに掲載したりホームページに掲載したりするなどして周知はしております。しかしながら、サイクルサポートステーションについて地域にバラつきがあるのかなと思いますので、那珂市全体に行きわたるように設置を考えていく必要があると思います。

○原口委員

また、放置自転車については明らかに乗れないような車両を撤去しているのでしょうか。

○事務局(宇佐美課長補佐(総括))

担当しています都市計画課に確認したところ、委員のご指摘とおり明らかに乗れないような自転車を対象に、周知期間を設けて、対応しているとのことでした。

○原口委員

ありがとうございました。

○平田会長

ありがとうございました。よろしいですかね。放置自転車は、学生が卒業してほったらかしにしてそのままにしているというのは昔からよくありますよね。学校への指導もされていると思いますが、モラルの問題もあると思いますし、もしアイデアがあるならば他の委員もご意見いただければと思います。

○事務局(金田課長)

補足になりますが、そういった時期になれば市内の高校に対して周知しておりますし、中学校や高校のステッカーが貼ってあれば、そちらに連絡して対応をお願いしているところでございます。毎年実施しているところですが、年々減少傾向にあります、全くなくなるということはないようでございます。

○平田会長

ありがとうございます。高校生に自分でどうにかしてもらうような仕組みがあると良いかもしれませんね。例えば、後輩に譲るシステムもあると面白いですし、高校でシェアサイクルをやってみたりなど前向きに解決するように促していくなど、解決策を学生にリクエストするのも良いですね。

では、堀田 委員いかがでしょうか。

○堀田委員

絹代 委員と同じ内容にはなるのですが、交通安全教育の実施のところで幼稚園、保育園が交通ルールを学びましたとあり、その下になるのですが、小学校9校、中学校5校で那珂警察署等の協力のもと自転車に関する交通ルール云々とありますが、小学校だと何年生、中学生だと何年生を対象にしている、毎年同じ人を対象に実施しているのかお伺いしたいと思います。

○事務局(井上主幹)

まず、小学生につきましては、満遍なく実施している状況であります。安全教育の内容になりますと、1、2年生については歩行を、3年生以上は自転車をそれぞれ実施していますが、1、2年生については小学校に歩き始める時期、3年生以上は自転車に乗り始める時期だと思われるといった内容になっているのではないかと推測されます。また、中学生につきましては、内容については自転車になり、中学1年生を那珂市だと小中一貫教育ですので7年生を対象にしているところでございます。さらに補足ですが、実施時期については、小中学生が入学された直後、学年が上がった直後の4、5月に実施しているようです。

○堀田委員

ありがとうございます。事故が多いのは、予備校に通う高校生なのか塾に通う中学生なのか、自転車で学習塾に通うなどそのあたりがネックになると思いますが、交通安全の周知が必要だと思います。学業も十分必要ですが、自転車に乗る際もヘルメットをかぶっての左側走行は、簡単なことですがなかなか守れていない状況だと思います。それと高校生になりますが、はっきり言ってひどい状況で論外だと思います。いまだにヘルメットをかぶっていません、那珂市内でもです。私はロードバイクに乗っていますが、先日、高校生が集団で走行しているところに行き、「君たちヘルメットかぶらないの?」と聞いてみたところ、「かっこいいねえ」で終わっちゃって話が出来なかったのですが、学校からの指導はないのでしょうか。また、市役所としてどう対応しているのでしょうか。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

高校となりますと直接的な指導は把握していないところですが、中学校については市教育委員会で指導はしております。私の娘も高校に通っていますが、簡単な交通安全の促しがあるだけであまり周知がされている感じはしません。

○菊池委員

那珂高校と水戸農業高校が那珂市内にあります。ちょうど去年の3月ですかね、令和6年度の新入生に対して、入学事前説明会のなかで、自転車通学する方の親御さんにはヘルメット購入のお話をしました。こちらは去年から始まった取組でもありますが、ヘルメットの着用率も少し上がってきたかなと思うところがございます。また、中学生は自転車に乗る際は、ヘルメットをかぶるように指導をしているところ。高校生については、特段必ずかぶるよう指導はしていないところがありますので、その点については各高校に対して義務化していただくようにしたいところですが、強制できないところありますので、現時点はそういった状況になります。

○堀田委員

ありがとうございました。やはり子どもたちの命を守るのは親の責任と言いますが、高校生については微妙な時期になりますよね。各自の判断となるのですが、それにしてもひどい状況に変わらないと思います。不思議なことに、ロードバイクやクロスバイクに乗る子たちはしっかりヘルメットをかぶっているんですね。普通のママチャリでポケットに手を突っ込んで傘をさしている子たちはまだまだいますので、警察の方々よろしく願いいたします。私からは以上になります。

○平田会長

ありがとうございます。高校生にもヘルメットの補助はあるのですか。

○菊池委員

那珂市では、小学生中学生に対するヘルメットの購入補助を行っていますので、高校生に対してもヘルメットの購入補助をしていただきたいという趣旨で発言いたしました。ご検討よろしく願いいたします。

○平田会長

ありがとうございます。管轄が違いますが、県の教育委員会ですかね。県の教育となりますと、どうですか、県の赤穂さん。高校生の教育は県でもよく議論される場所ですが、取組の実態やヘルメットの強制、安全教育など実態はどうでしょうか。

○赤穂代理

はい、高校生の教育となりますと、茨城県でも教育庁というところが管轄になりますので、実態や具体的な取組を承知していないところでございます。

○平田会長

そうですね。ありがとうございました。高校生は、市としても手が出しづらいところですか。

○渡邊企画部長

高校生のヘルメットの購入補助となりますと、高校生は水戸市や常陸大宮市、常陸太田市などから通学している方もいて、自転車に乗る人も駅からだとか家からだとかいろいろだと思います。市外の方が含まれていると、市が補助を出すというのはなかなか難しいのかなと思います。議会でも、高校生のヘルメットの着用率が低いという一般質問もありましたが、市内の各高校に話はするにしても、やはり高校生はカッコ悪いとか髪が乱れてしまうなどという理由でかぶらない子が多くいるような話は聞いたことはあります。実態として、高校生のヘルメット着用が進まないのが現状です。

○平田会長

ありがとうございます。安全を本気で考えれば、ヘルメットをかぶる気持ちになるかと思うのですがね。ヘルメットの補助はどうですかね。那珂市民でないという理由は分かるのですが、そこは、那珂市

はハートを持って受け入れるということで、希望があれば補助を出しますということがあっても良いのではないかなと思います。限定10個とか。

○渡邊企画部長

また、高齢者にヘルメット購入補助をした方が良いのではないかなという意見もあるのですが、なかなか実行には至っていません。

○平田会長

そうですね。なかなかそこは財源の問題もありますしね。継続検討で引き続きよろしく願いいたします。では、國井 委員、いかがですかね。

○國井委員

絹代 委員もお話していたところではあるのですが、私も茨城出身で那珂市に住んでいて、中学生の時は自転車に乗っていたところではあります、夜に事故が多いところなんです、少し街灯が少なすぎるのではないかなと思います。自転車を走れる場所を矢羽根で整備するのは良いのですが、そこに街灯がなさすぎて暗く、自転車が悪いとか自動車が悪いではなくて、走りやすい環境を整備できないのかなと思います。街灯にはもちろん費用がかかりますが、田舎ならではの暗さがあるので。矢印のマークって青色ですが、私も夜に車を運転していた時に全然見えなくて、突然白い自転車マークが出てくると、猫やハクビシンの飛び出しのように何かが出てきたように感じ驚いたことがあります。ですので、道路の明るさをどうにかできないかなと、ライティング的なことができないのかなと思います。明るいところを走っていれば、そういった事故なども比較的なくなり、逆走など、青い矢印マークが見えないからこそしてしまうのではないかなと思うところでは。

○平田会長

ありがとうございます。ハード整備は難しい時代ではありますが、道路管理者の立場としていかがですか。

○高塚建設部長

はい、ご意見ありがとうございます。建設部で道路を管理しているところですが、住民の方々からも暗いという声もあることは承知しているところでは。そういった声がある箇所には、極力設置をしていきたいところですが、なかなか難しいところもあります。また、住んでいる方が明るすぎるという声もあります。ですので、この微妙な距離感、微妙な明るさといったところ、そういった難しいところも若干あるのですが、住民の方々からのそういったお声もたくさんのごところから聞いておりますので、極力対応できればと思います。

○平田会長

ありがとうございます。たとえば青矢羽根の車道側に1本白い輝度の高いものを入れるようなオプションもありますが、費用もかかりますし、すぐ剥がれてしまいますよね。車を運転していて突然それが現れて、ハクビシンと思って事故を起こしてしまうことがあれば、それはそれで防がないといけないですね。レアケースではあるかと思うのですが、そういったことがあるのであれば気を付けないといけませんね。

では、県庁の赤穂さん、何か全般的にご意見あればお願いいたします。

○赤穂課長補佐

まず感想になりますが、資料1の16ページ以降にあるサイクルツーリズムによる地域の活性化について、那珂市さんは、様々なサイクルイベントを開催していただき茨城県としても大変心強いと思っております。やはり民間と連携したイベントというところが大きいかと思います、自治体が自主的にやるとなると大変になるので、これほどのイベントを開催できないと思います。JR さんであったり、LuckyFM さんであったり、いろいろと連携する関係者がいるというところは非常に大きいと思います。

一点ほど、データで持ち合わせていたら結構ですので、お伺いさせていただければと思います。ハ

ーフセンチュリーは市内の様々な特産品を提供するなど、そのほかのイベントもそうですが、市外ひいては県外にも PR できるような機会の場になるのかなと思います。実際、イベントの参加者数ですが、市外の参加者数や県外の参加者数のデータを持ち合わせていたらご教授いただければ幸いです。

○事務局(井上主幹)

はい、こちらで把握しているイベントのみになりますが、ご紹介させていただければと思います。まず、いばチャリになりますが、LuckyFM さんが事前事後とアンケートを実施しているところになりますので、そちらの数値をお答えいたします。全体で113名がありまして、そのうち102名が茨城県内、11名の方が県外となります。また、遠方の参加者としては岐阜県からご参加いただいた方がいらっしゃいました。続いてハーフセンチュリーになりますが、こちらは事後にアンケートを実施しておりますので、そちらを元に回答させていただきます。72名の方から回答がありまして、県内については55名のご参加で、県外については17名のご参加をいただきました。遠方としては、群馬県や神奈川県といったところから参加されています。把握しているイベントについては以上となります。

○赤穂課長補佐

詳細な数値をお教えいただきありがとうございます。参加者数からみて、県外からの割合は高いのかなと実感しました。県内の観光 PR のイベントの一環でもございますし、県外からの参加者がいらっしゃるというのは非常に大きいと感じました。こういった取組を継続して行く、我々としても県全体としてそういったイベントを応援していく姿勢を持って、今後も引き続き連携していきたいと思いました。ありがとうございました。

○平田会長

ありがとうございました。ちなみに、他の県や他の地域と比べても県外の参加者は多い感じですか。

○赤穂課長補佐

はい、全てを承知しているところではございませんが、県内や県外のイベントに出ましても、茨城のサイクリングロードを走ったことがある方の声は非常に多く聞きます。東京、神奈川、埼玉、千葉の方からよく聞きます。地理的なものではないのですが、りんりんロードは都内からも行きやすいところであるのですが、我々としましては横展開していきまして、奥久慈里山ヒルクライムルートや大洗のほうのシーサイドルートといったところに広げていきたいと思っています。

ちなみに、具体的に分かっているところとなりますと、土浦市で開催した茨城 K1 ライドですが、昨年11月に開催したところですが、参加者はだいたい900人ほどいたかと思うのですが、2割が県内、8割が県外ということで、非常に顕著なイベントでありました。主催者に聞きますと、新規の方も多ですが、リピーターとして来てくれる方も一定数いるということも伺っています。そのため、イベントの継続性が非常に大事だと思います。魅力を落とさずにイベントを続けていくことは非常に大変なことですので、那珂市さんからこういったイベントの情報をいただきましたので、参考とさせていただきます。ありがとうございました。

○平田会長

ありがとうございました。ハーフセンチュリーは、今回は人数が減ってしまいましたが、知名度もあるんだなあと思いますし、継続してやられてきて、今後どうしたいとか中身をどうしたいとか、市内、県内、県外といったところをみて、今後の展望があればお教えしてほしいですが。

○東ヶ崎副会長

ハーフセンチュリーについては、今年で40回目を迎えるところですが、参加者数はピーク時に400から500名ほど近いでしたが、最近は100名そこそこ減っています。このイベントが始まった際には、茨城県内ではそういったイベントがほとんどない状況で、私は携わった訳ではないですが、協会として何かやろうと始まりました。そういった経緯で、茨城県でサイクリングを普及させようという目的で始まったと思います。それに対して、現在はいろいろなイベントが増えてきたところで、参加者数も減ってしまったのかなと思います。サイクリングの普及ということで、ハーフセンチュリーいばらきも一定の役割を果たせたのかなと思います。今後としては、参加者を増やしたい願望もあるのですが、課題も

ありますので、様々な検討を進めていきたいと思っています。

○平田会長

そうですね。そういったイベントがたくさん増えてきていますよね。トータルの参加者数は増えているし、ある意味参加者の取り合いになってますよね。これだけ各地域のイベントが展開しているのは、良いことですよね。同じ日に別なところで同じようなイベントがやってるのが良いのか悪いのかが分からないですが、そこはうまく県の方が俯瞰してみて、いつでもどこでも何かやっているようなそういう調整が必要であればやってもらえば良いと思います。

ありがとうございます。ハーフセンチュリーが一番歴史があるイベントのようですので、また役割を終えたということだけでなく、また新たなアプローチで次の需要を掘り起こすような一步を。外から参加者がやってくるのは良いことですが、やはり市民の方が自分の地元を自ら楽しんで地元を知ることが、もう一度強化していただきたいなど個人的には思います。ありがとうございます。

では、絹代 委員どうぞ。

○絹代委員

今の件に関してなのですが、ここ数年自転車のイベントに人が来ないという状況がありまして、これまでは募集開始から45分で全部売り切れていたようなイベントでさえも、人を集めるのに苦労しています。また、これまで全くエントリーできないといったイベントでも当日エントリーを受付けても満員にならないといった状況が、ここ2年くらい、コロナで一気に人々の動きが変わってしまったというか、かなり顕著なのが、ロングライド、グランfondといった登りがきついような厳しいイメージなものに、極端に来ないという状況もあります。もしかすると、センチュリーみたいな言葉がついているものはちょっと不利かもしれないです。なかなか皆さんが長い距離を頑張って乗るという時代が終わってしまったようで、グランfondハケ岳といったイベントなどは、たしかハケ岳グルメライドで、コースは同じで名前は変えたといった状況もあるくらい、ちょっと厳しいイメージがあるものを敬遠し始めたという流れがあるというのがまず1個、皆さんに知っていただきたいことかなと。

また、もう1個、資料の中に、広報でSNSというのがあったかと思いますが、あまり那珂市のSNS発信を私はあまり見たことがなくて、人を如何にして呼ぶかということも話題にあったので、ちょっと相談してみようかなと思ったのですが、「那珂市 サイクリング」みたいなことをグーグルに入れて検索しても、キュンとくる情報が上がってこないんですね。今はみんなが行先を探る中で、検索してこれ食べたいとか、この景色見てみて自分で写真を撮りたいとか、そういう衝動みたいなものがないと、行先に選んでももらえないということがあって、もしかしたら茨城県が契約している方が走られているYouTube 動画が上がってくるかもしれませんが、平田会長がいる茨城県の県庁のアンケートでも、なかなか動画を見てそこを訪れにきた方が少ないというデータがあったことも記憶にあります。もう少し皆で手分けをして、ガッツリジャージを着て長い距離を走るではなく、自転車でちょっと楽しむ、良い景色を見る、ちょっと楽しいことをする、美味しいもの食べる、そういった情報が載っているような状況を目指した方が、もっと人が来るのかなと思いました。那珂市の中でも、いわゆる玄人のサイクリストを呼びたいのか、もっと那珂市でちょっと遊んでくれるようなライト層を呼びたいのかの志向にもよるかと思いますが、このあたりいかがですか。

○平田会長

いかかですか。市の意向とサイクリング協会のご意向で違うと思いますが。市のほうからお願いします。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

昨年、茨城県のほうで出店したサイクルモードと一緒に出させていただいたのですが、そこでライダーの方と少しお話をさせていただきました。走ることは走るのですが、実際その後どこに何を食べたいとか、そういったところが大切なんですよ、という話を聞いて、自転車プラス観光として、自転車を乗った後に、ここで休める、こういったものが食べれるなどといった情報が大切なんですよといった声も聞かせていただきました。実際に、その方は那珂市に来ていただいて木内酒造さんに立ち寄っていただいたというお手紙もいただきました。自転車だからというだけでなく、観光 PR も併せて行っていないかなくてはならないんだと、改めて感じたところです。

○絹代委員

いま、SNS の展開って那珂市にあるのですか。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

自転車というところでは、単独で SNS というところは漏れているところはあるのかなと思います。シティプロモーション推進室でいい那珂暮らし応援団という形で発信しているのですが、どうしてもそれほど露出は多くないと思います。

○絹代委員

なるほど。基本方針3には、WEB や SNS や雑誌などの媒体を活用した情報発信とあって、人を呼んでいこうとなると、待っていてもなかなか来ないので、那珂市もいっぱい美味しいものがたくさんあるじゃないですか、クリームパンとか、そういうのを自転車と絡めて、ガチの情報だけでなく、そういったちょっとした情報、自転車で立ち寄るお店とか、自転車でここに立ち寄ってみたいなど、皆さんが思っていたような情報発信と、先ほど平田会長がおっしゃっていたサイクルサポートステーションも紙のマップしかないというお話があって、なかなか土地勘のない方が紙のマップを見て住所でサイクルサポートステーションに行くというのは難しいので、やはりスマートフォンで簡単に検索できて立ち寄れるみたいな情報があったら便利だと思います。人を招こうと思うのなら、こう少し SNS 戦略といったもの、もう少し皆さんがアクセスしやすい、リーチしやすい情報にシフトしていてもいいのかなと私自身は感じました。私からは以上です。

○平田会長

はい、ありがとうございます。そのあたりは那珂市さんいかがですか。私は積極的にやっていると思っ込んでいたところではありますが、そうでなければ次の5年で頑張ってください。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

ありがとうございます。駅からサイクリングといった期間型のイベントでスポット的にこういったものがありますよといった周知は始まったのですが、もう一度見直しというのが必要かなと思いますので、参考にさせていただき次の取組を進めていければと思います。

○平田会長

センチュリーってこういう言葉は、すごくハードなイメージで使われているのですか。

○絹代委員

センチュリーって100マイルですからね。160kmですよ。

○東ヶ崎副会長

もともとアメリカで始まったスポーツで、100マイル日本という約160kmを制限時間8時間以内で完走するというのが目的になります。

○絹代委員

せっかく那珂市って、ハート型でほんわりしているじゃないですか。ちょっと遊びに来て、日帰りでも良いので、そういったイメージの情報発信がもっとあっても良いのではないかな。サイクルモードに出店するのもありですけど、地道な取り組みを、市の職員がやるのはなかなか大変なので、応援隊みたいなものを味方に増やして、皆で那珂市の情報を上げていって、今クラウドの中にどれだけ情報があるかということで、皆さんが来るか来ないかわ変わってくる時代になっているので、もう少し那珂市の情報があると、せっかく可愛らしいかたちの市なのでそこを活かして、もっと自転車で遊べる近いイメージにしていった方が、私は人がもっと来るんじゃないかなと感じています。

○平田会長

マーケティングになりますね。是非そこは、両面作戦を。センチュリーという意味も知らずに委員長を

やっていて申し訳ないですが。

○絹代委員

ハーフセンチュリーは、ハーフセンチュリーでとても良い大会なので絶対に続けていって良いと思います。それだけでなく、日常に来てくれるように、リピーターを増やしていけたらいいなど。

○平田会長

そうですね、そうしていきましょう。よろしいですかね。では、小島さんお待たせいたしました。ハードな意見をよろしく願います。

○小島技佐

道路維持課の小島でございます。今まで皆様のお話を聞かせていただきまして、強く感じたことが、自転車といっても色々なタイプがあるかと思えます。スポーツバイクや一般バイクに分かれていたり、高齢者が乗るような自転車、ドロップハンドルが一体となったようなものがあり、一緒くたで同じように議論してしまうと、安全教育だとか事故の発生状況など変わってくると思えます。那珂市さんで頑張っているところではございますが、私もつくばのまちづくりをしていた中で、TX 駅の開業時に言われたことがありまして、まちづくりというのはまず魅せる街区、いわゆる、一番最初に完成する街区を造らなくてはいけないと駄目だと言われました。駅前のところでは魅せる街区に集中投資して、駅前は今後こういう風になっていくんだといった行為が必要だと言われました。できたてではなく、魅せる街区に取り組む姿勢が必要になりますので、那珂市が自転車で取り組んでいる姿を外に発信していかないとなかなか浸透していかないですね。ここで那珂市が頑張っている姿を見せることで、自転車に乗るにはこういった安全性が必要だとか、こういったルールが必要だとか、が浸透していくと思えます。

あとは、両極端ではありますが、公道のレースを1度やってみるとかで、自転車のまちだというフラグを立ててみると、注目的になるのかなと思えます。絹代 委員もおっしゃるとおり、地域におけるライドイベントも大事だとありましたが、ハーフセンチュリー大会とかでハードな部分だけでなく優しい部分を持つような2面性のあるアプローチを進めていった方が良いと思えますし、それを外に向けて見せていく取組が必要かなと思えます。

また、SNS といったものを使えば全世界的に情報発信をできるので、県外だけでなく国外に向けても情報発信が必要かなと思えます。ですから、そういう意味でグローバルな視点からみて、地域にある観光資源をもう一度再確認しようとか、歴史や文化のあるまちを再確認しようとか、そこは海外の方から見たら、日本の生活に直に触れられるようなところでもあります。たとえば、田んぼの中にあるあぜ道を走ってそこに咲いている菜の花が地域資源になるといった、普段私たちが何気ないと感じている風景が、海外の方に対しては観光資源となっていることもあります。積極的に自分たちが自転車を使っているまちづくりを外に向けて発信する必要があるかと思えますし、そういった情報を発信し続けることで安全対策や事故の発生状況だとかが市民の方々への理解につながるかなと思えました。以上になります。

○平田会長

ありがとうございます。公道のレースなんかできるのかな。一般の方が参加できると良いですね。一発本気で那珂市って自転車のまちづくりを目指しているんだな、っていうことが市民に浸透するとその先は結構スツと行く可能性もありますよね。そこまで本気でなにか大きいものをやれるかどうかですね。

○小島技佐

土浦市がそんな感じなんですよ。

○平田会長

そうですね、土浦はりりんロードがありますしね。那珂市もそれを越えていくような取組なんかあると面白いですよ。では、引田係長どうですかね。

○引田係長

代理で出席しています引田でございます。私もロードバイクを持っていて、今は休業中ですが、今日の会議に出席しまして、那珂市さんはだいぶ力を入れているなど感じさせていただきました。もう少し暖かくなったら、また始めてみようかなという気になりました。事務所に帰れば同僚に、また私が入っているチームのメンバーに声を掛けて、一緒にイベントに参加しようかと思いました。

○平田会長

ありがとうございます。常陸大宮土木事務所さんは結構自転車好きは多いのですか。

○引田係長

常陸大宮土木事務所ではないのですが、民間の方々などが参加するチームに入っているのですが、その仲間たちとあちこち行ってサイクリングをしていました。私は平地専門で山岳は苦手なので那珂市はちょうど良いかもしれませんね。

○平田会長

ありがとうございました。では、菊池 委員のほうで何か追加でありますか。公道レースに言及していただいても良いですが。いかがですか。

○菊池委員

安全教育については、那珂市小中学校については教育委員会がしっかりやっけていただいておりますが、私も何校が安全教室に参加させていただき指導を行っているところですが、皆さんしっかり勉強してもらってるかなと思います。加えて、那珂市内の幼稚園、保育園の先生方からの安全教室の依頼もたくさん来ています。また、先ほどもありました那珂高校と水戸農業高校の特に1年生を中心に安全教室を実施したり、茨城女子短期大学にも毎年安全教室ということで行っていますので、生徒や学生さんがしっかり勉強できるように、私たちも心に染みるような指導がさらに出来たら良いのかなと思います。那珂市と協力して事故ゼロを目指していけたらなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○平田会長

ありがとうございます。心に染みる指導なんて良いですね。まさにそこに尽きるかもしれないですね。ちなみに、小中学校の安全教室の内容は、県警の中でだいたい決まっているのですか。各警察署で独自で考えているのか。そのあたりはどうなっているのですか。

○菊池委員

はい、内容としましては、各学校単位でこんなことをしたいという要望がありますので、私も行きますが基本的に指導するのではなく、警察本部にある交通総務課がありそちらに指導する専門官がいますので、そちらで腹話術とか横断歩道の渡り方などをしっかり指導しています。あとは、那珂市でも依頼している自転車を指導する方に来てもらって、そこに私たちが付随して指導していくということもあります。ですので、各学校によって多少なり指導内容は変わってくるものもありますが、大体が同じような内容にはなります。

○平田会長

ありがとうございます。今やられているスタイルも大事ですので継続していく必要もあると思いますが、わざわざ警察の方が行かなくても、たとえば前の年に学んだ生徒が指導してくれるような取組があると良いですね。先ほどあった交通安全点検プログラムでも、走っている本人が一番分かっているのだから、そういうのを題材に、ここはこうやって走っていると危ないよねとか、高校生とか中学生が自分たちで考えて、菊池 委員がバシッと専門的な立場からアドバイスしてあげるなんか、そういう新しい取組があると良いですね。自ら考えて調査して、大変ですが、ただ来てただ聞くよりかは、参加型のほうが効果は高いし、そこを後輩に引き継いでいくところを見せられると本当は良いなと思います。言うが易いですが、そういう視点でも市役所の方もサポートして新しい取組を全国に発信してもらえればなと思い聞いておりました。

ありがとうございました。その他いかがですか。

○渡邊企画部長

SNS 発信というところはありませんでしたが、市のウィークポイントというところで、現在シティプロモーション推進室というところで頑張っています。生活情報を出すので精一杯なので本当は動画なんかどんどん出してほしいと感じていますが、そこまでしていないのが現状ではあります。本当は個人個人の担当でいろいろな情報を発信していくような方法を学んでいったら良いなというのが理想かなと考えています。また、ハーフセンチュリーのお話も出たところですが、植物園がリニューアル工事をしていますので、11月頃に完成予定だということです。植物園のリニューアルということで、温浴施設と宿泊施設、グランピング施設ができるということです。それとまたタイアップすると、自転車に乗って温浴施設でサウナなりお風呂入って帰れますよみたいなアピールすると、お客さんが、リピーターが増えてくるのかなと感じています。

あとは、令和10年以降になります。道の駅計画もありますので、自転車活用のポイントになってくるかなと思ひ、いろいろ組み込んでいければもっとたくさんのことができるのかなと思ひます。

SNS について、もっと頑張っていけないといけないと痛感しているところではございます。

○平田会長

ありがとうございます。他はいかがですか。絹代 委員、何か言い残したことがあれば。

○絹代委員

SNS 発信って市役所の方々だけでやるのは無理なので、何かこう味方を作りたいですね。石岡市でサイクリングクラブを作ろうということが以前あったのですが、那珂市をよく知っている緩いサイクリストが同じハッシュタグで上げていくとか、そういうのがあったら良いなと思うのと、ヘルメットの話で高校生がかぶらないとありましたが、もしかしたらカッコいいヘルメット見つけてきたよとか、今軽いのもあるので、こういう情報をもしかしたら高校生でも協力してくれる人に上げてもらうなど、何か味方作りを。愛媛県だと愛媛県内のサイクリングユニットのリストを、県が持っているんですよ。いろいろ頼めたり、一緒に何かやろうよなど声掛けができるようになっていて、市役所の方も手一杯だと思うので、そういう一緒に動いてくださる方がもっと増えていったら良いのかなと思ひました。

あともう1個で、健康のメリットのところ周知するとあったのですが、私多くの自治体で委員をやらせていただいているのですが、健康のメリットの情報を出せていない自治体がほとんどなんです。那珂市さんも、健康の面で何かアピールすると、市民の方も乗りやすくなるので、難しい分野になります。是非そういった情報発信をしていただければと思ひます。私からは追加で以上になります。

○平田会長

ありがとうございます。是非サポーターといひますか、仲間は必ずどこかにいますので、よろしく願ひいたします。

他はよろしいですかね。時間もあれですが、私も追加になります。8ページにありますがシェアサイクルになります。検討しますとありますが、本気でどこかでやろうと考えているのですか。ターゲットは誰ですか。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

はい、一度検討しことはありますが、管理してくれる受け皿になるようなところがないとなかなか厳しいです。ほかの自治体に言われました。直接市が管理するとなると長続きしないので、どこか受け皿になるような団体がないということでありました。そういったところの検討を始めないといけないなと感じたところが、今の状況になります。

○平田会長

ありがとうございます。水戸市は数年前からシェアサイクルが増えていますが、ポートも増やして、自転車の数が偏ったものを移動したりしているようですが、大変は大変みたいですね。水戸市の30万人程度の規模で導入は分かりますが、那珂市の5万人程度の密度の低い場所ではどうなんですかね。まず、シェアサイクルとしてどういったところを期待しているかとかは、私も理解できていない部分もあ

りますが、ただ単に入れば良いではなく、どういった方に使ってほしい、市民にとってどう良いのかという視点で冷静に見ていただいて、民間で完全に黒字でっていうところは難しいので、それでも公益性があるというならば、市役所で公共政策としてやるっていうのも一定の価値はあると思います。ですので、5万人程度で導入している地方都市があれば、そういったことをヒアリングしていただいて現実を知ること必要かと思えます。

あとは、ノーマイカーデー的なことはいたるところでやっていますが、人数は減ってしまってますよね。どうしても冬の寒い時期は誰も自転車に乗ってくれないなんて、ものすごく寒くて、自分自身も寒すぎて乗れない日とかありますしね。それで夏は暑くて乗れないみたいなんてね。たしかに季節はあると思いますが、ある意味1週間頑張るみたいな日本でよくあるやり方が本当に良いのって、正直言うと何の意味があるのと思ってしまいます。すべての職員が週に1度は自転車が徒歩にする、ノーマイカーをするとかのほうがまだ良いですよ。5日のうち誰か1日やっていけば、それで2割減るわけですからね。やっている意味があるとか、継続していくことに健康にもつながるし、僕なんか自転車通勤しなればもっとひどい身体になってたなんて痛感しますからね。去年もそういったお話をした記憶が蘇ってきましたけど、市役所でも誰かが自転車通勤にしたらすごく健康になりましたみたいなインパクトが欲しいですよ。それか負荷が少ない週に1回、月に1回でも良いですけど、そういうことを継続的にやるほうが意味があるのではないかなと正直思うところです。

では、時間になりましたので、ご意見等ございましたら直接事務局にお電話やメール等でお願ひできればと思います。また、自転車活用推進計画は5年経過したので、もし変えるところがあれば変えてもらったほうが良いかもしれませんし、イベントの目標値なんて来年達成しそうですもんね。目標値を1,000人くらいに上げるとか、まあ、数の時代でもなくなっていますし、評価をどうするかもありますが、もう少し質を見ていくような指標を入れてとか。10年同じことをやるとかではなく、5年とかの節目に計画を見直してもう少しアップデートしていくことが必要だと思います。次年度でも良いですし、この協議会を受けて事務局で計画を修正などしていただきたいなと思います。この協議会での審議も必要になってくるかもしれませんが、メールなどで良いですかみたいな形でアップデートしても良いですね。常にアップデートしている姿を見せる姿勢が重要ですし、実際一生懸命やっていますし、そういうPRも必要かなと思いました。

それでは、ただ今各委員からいただきました意見等を踏まえつつ、今後の施策の検討を進めていただけたらと思います。以上で本日の協議事項は全て終了しました。委員の皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。それでは、事務局に進行をお返しします。よろしくお願ひいたします。

(6)その他

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

平田会長、長時間にわたり、スムーズな進行をご審議いただき、誠にありがとうございました。また、皆様から貴重なご意見をたくさんいただきまして、特に、SNSの発信など那珂市の弱いところなど今後の事業の参考とさせていただきます。どうもありがとうございました。この協議会は、那珂市自転車活用推進計画の施策の進行状況において、このように年度末に開催させていただき、一年間の活動内容をご報告させていただきますのでどうぞよろしくお願ひいたします。それでは「次第の6 その他」について委員の皆様から個別の事業の案内、連絡事項等ありましたら、この場でご案内いただければと思います。その他なければ、事務局より説明をお願いします。

○事務局(井上主幹)

協議事項の中でもご報告しましたが、来年度サイクリングイベントについてです。まず、JR水戸支社と連携し「駅からサイクリング」を開催します。期間は4月から7月までで、ポイントは今年度から刷新をしています。全てのポイントをチェックインした参加者には前回同様に那珂市ならではの特典を用意します。

また、令和7年度は未就学児を対象に「こどもの自転車教室」を2回、実施予定をしています。昨年度の協議会を受けての実施になります。未就学児を対象に、ゲームや遊びを通じてバランスの取り方などを学んでもらいたいと思っています。

(7)閉会

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

ご意見等はございませんか。他になければ以上をもちまして、令和6年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を終了いたします。皆様、本日は、大変お疲れ様でした。オンラインで参加いただきました絹代 委員におかれましても大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上